



モ〜ツと搾ってヨ〜

平成二十四年度上期生乳生産量から検証！ 生産申告数量は なぜ未達となったのでしょうか!?

本誌九月号から、特集「生乳生産基盤の現状に着目」の掲載を行っています。何故、広酪全体の生乳生産量は伸び悩んでいるのでしょうか？①分娩が思わしくなくて、②産後の事故、③猛暑の影響、④授精遅延、様々な理由が聞こえてきます。

広酪は、年度当初に生乳出荷組合員から平成二十四年度の生乳生産見込み数量を申告頂きました。この年間累計数量は、**五万六千六百二十一・九トン**でありました。

平成二十四年度上期を終えて、申告数量に対する全体の進捗率は**四十八・五%**となっております。

また、平成二十四年十月の生乳受託数量において、前年同期比較から、**前年度を超えた生乳出荷組合員数は五十七戸、変動無しは、十八戸、未達は八十六戸**となっております。(次頁の表)

未達に該当する生乳出荷組合員におかれましては、その酪農経営に何らかの影響をもたらしているものと思えます。飼養家畜の動態表を見ながら、酪農経営が『ブレ』することの無いよう対処されますことをお推めします。

■平成二十四年度の 生乳生産量は?

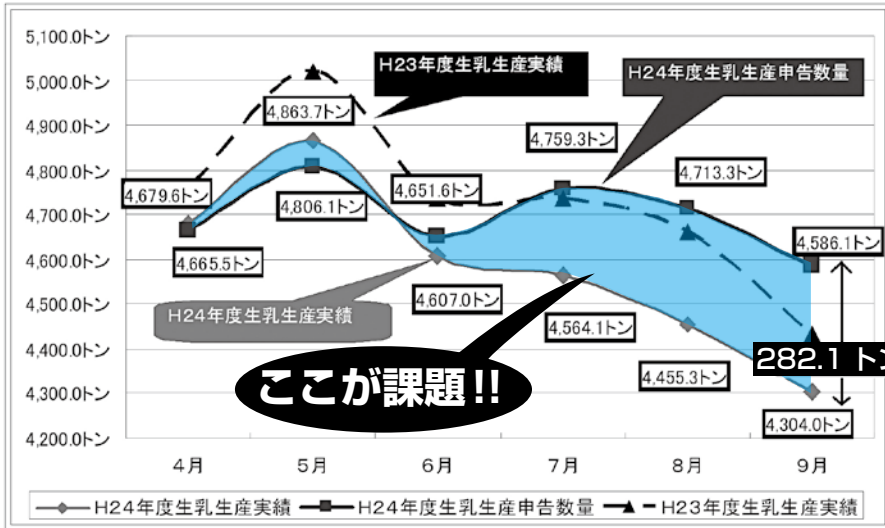
広酪は、中国生乳販連から平成二十四年度生乳計画生産目標数量として、**五万六千二十五トン**(前年生産実績比**百・六%**)の割当を受けました。

生乳出荷組合員を対象に実施した平成二十四年度の生乳生産申告数量に対して、広酪は平成二十三年度の生乳生産推移に検討を加え、平成二十四年度事業予算計画に盛り込む生乳受託計画数量を、**五万五千五百トン**(前年実績比**九十九・七%**)に設定し、同年度の事業執行に着手しました。

■申告生産数量に対する 進捗率は**四十八・五%**

平成二十四年度上期生乳受託数量は**二万七千四百七十三・六トン**(前年同期比**九十六・八%**、計画対比**九十六・九%**)、販売数量は**二万七千四百十八・三トン**(前年同期比**九十六・八%**)となり、全国的に前年度を上回る生産基調の中、広酪は中国生乳販連傘下会員の中で、唯一、前年同期比を下回る結果となりました。

生乳生産申告数量に対する進捗率は**四十八・五%**、同計画数量に対しては**四十九・五%**と、何れも**五十%**に届かない状況で推移しました。



■申告数量に対する生乳生産実績の分析

生乳出荷組合員の皆さんが計画された年間計画に基づく申告数量は56,621.9トン。上期分として、単純に半分にすると

- 上期の年間申告数量 28,310.9 トン①
- 上期の生乳受託実績数量は 27,473.6 トン②
- この差異は①-② 837.3 トン③

③に乳価110円/kgを乗じるとその乳代は、92,103千円。
生乳出荷組合161戸の単純平均で、1戸あたりの乳代は572千円に相当する。
月間の生乳売上に換算すると月額95千円の収入ダウン。
→資金繰りの悪化。運転資金の悪化。

■生乳生産量の推移

生乳生産申告数量は、生乳出荷組合員個々から申告された数量の累計であり、この数量に達していない実状は、個々の酪農経営の財務、収支、資金繰りに影響が及んでいるものと考えますが如何でしょうか。

なぜ、生乳生産量が減少したのかは、個々の酪農経営において様々な原因があるものと考えられます。見方として、年間の生乳生産において、「定時・定量・定質」を確保することは、健全な酪農経営を行う上で重要と考えます。生乳生産量の申告数量に達しない酪農経営体においては、現状分析と対応策について、再度、考察頂きたいと願います。

■平成二十四年十月と平成二十三年十月の頭数比較等

平成二十四年十月の生乳受託数量が先般確定しました。生乳出荷組合員の内、前年同期の比較において、最大増量は月間四十一トン(日量一・三トン)、反対に最大減少量は月間四十八トン(日量一・五トン)となっております。

これらの内容をもって一頭当たりの平均生産乳量で除すると、搾乳牛が一頭以上増頭となった生乳出荷組合員戸数は五十七戸、これに対して、頭数が減少している生乳出荷組合員戸数は八十六戸となっており、この概要を「搾乳頭数変動状況表」で示します。

【搾乳頭数変動状況表】

区分	頭数範囲	生乳出荷組合員戸数	構成比率
頭数が増加	55頭以上	1戸	0.6%
	20頭以上 25頭未満	1戸	0.6%
	15頭以上 20頭未満	2戸	1.2%
	10頭以上 15頭未満	5戸	3.1%
	5頭以上 10頭未満	11戸	6.8%
	1頭以上 5頭未満	37戸	23.0%
	頭数変動無し	18戸	11.2%
頭数が減少	1頭以上 5頭未満	56戸	34.8%
	5頭以上 10頭未満	19戸	11.8%
	10頭以上 15頭未満	5戸	3.1%
	15頭以上 20頭未満	3戸	1.9%
	20頭以上 25頭未満	1戸	0.6%
	25頭以上 30頭未満	1戸	0.6%
	55頭以上	1戸	0.6%
合計		161戸	100.0%

■まとめ

搾乳牛頭数の減少は、生乳生産量(出荷量)減少に連動し、直接、酪農経営収支はもとより月々の資金繰りに影響をもたらします。

理想は、バルク乳が常に満タンであることでは無いでしょうか。頭数減少の原因は、個々の酪農経営において異なるものと考えます。

産前産後の事故により、やむなく廃用する事態を招かないように、再度、点検・分析をされ、来年度に向けた備えをお願いします。